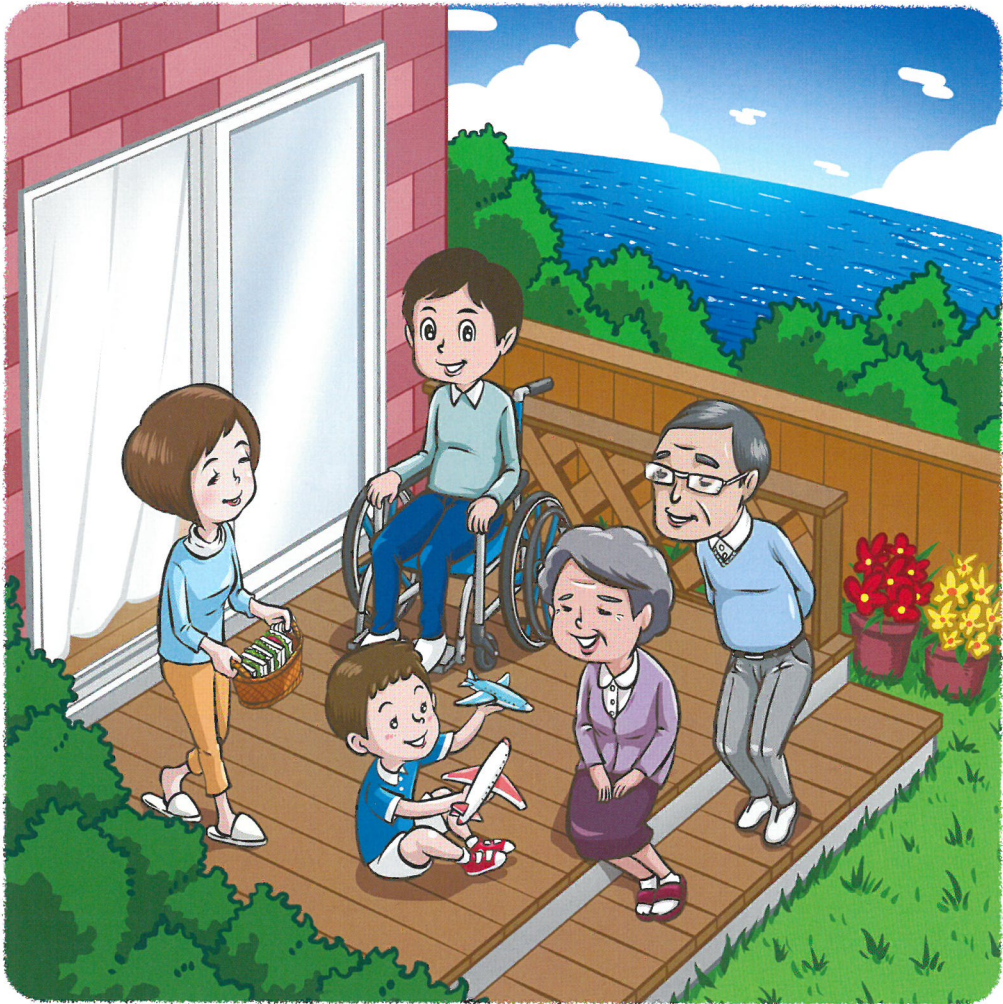


第27回

2016 福祉住宅建築助成実例集

# ふれあい



イラスト/株式会社 伝々小社

バリアフリー住宅施工例

公益財団法人

ノーマライゼーション住宅財団

# 私たちの「願い」

——— 公益財団法人として ———

私たちは、公益に資する法人として、  
「高齢者も障がいのある人も社会で共に暮らし、共に生きることが  
ノーマルである」というノーマライゼーションの理念に基づき  
高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備、  
向上を通して  
すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の  
増進に寄与することを目的に取り組んでおります。

私たちのこの「願い」のため  
尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう  
心からお願い申し上げます。

## 自立に向けた住環境の整備を

世界に類をみない超高齢社会に足を踏み入れたわが国では、高齢者が生きがいをもって快適に暮らすことのできる社会づくりが急務です。それにはまず生活の基礎となる住環境の整備が重要と考えます。そして障がい者が地域で暮らし、自立した生活を送ることができる環境作りは、誰もが願う共通の課題です。

平成元年に設立した当財団は、ノーマライゼーションの理念のもとに、建築、福祉、医療、保健など様々な分野の協力をいただきながら、福祉住宅の研究と普及に力を注いで参りました。その成果は、設立以来続けている「福祉住宅建築助成事業」にみることができます。その対象住宅を紹介するこの実例集「ふれあい」の発行は、おかげ様で今回で27回目となりました。

今回も各地から多数のご応募をいただきました。近い未来には、誰もが安心して暮らせる福祉住宅が一般住宅として普及することを願いつつ、「ふれあい」発刊にあたり、取材にご協力くださいました建築主の皆様、設計・施工に携わった全ての企業様、そして選考にご協力くださいました審査委員の皆様に、心からお礼申し上げます。

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

理事長 土屋 公三

## 目次

自立に向けた住環境の整備を  
（公財）ノーマライゼーション住宅財団 理事長

土屋 公三

バリアフリーの  
難しさを再認識

4

住み慣れた家を再現し  
更に進化させた暖かい新居

北海道札幌市

S様邸

6

家族みんなで暮らしたい  
強い願いの詰まった住まい

宮城県仙台市

A様邸

8

先々増える家族のために  
快適性を重視した住まい

北海道札幌市

D様邸

10

愛着ある築四十年の家が  
快適で暖かに大変身

東京都狛江市

S様邸

12

### 新築タイプ

第27回の審査委員（敬称略・順不同）

審査委員長

北海道工業大学 名誉教授 菊地 弘明

審査委員

北海道デザイン協議会 名誉会長

大阪 克彦

北海道社会福祉協議会 総務部長

藤田 裕行

一級建築士事務所西代企画設計 代表

西代 明子

札幌市社会福祉協議会 常務理事

宮川 学

(株)住宅産業新聞社 代表取締役

小西 征夫

北海道新聞社 編集局生活部

平原 雄一

(株)北海道住宅新聞社 代表取締役

白井 康永

集合タイプ

リフォームタイプ

水回りをシンプルにまとめ  
快適度が格段にアップ

明るくなったキッチンから  
リビングの見通しもバッチリ

老朽化した食堂を  
巧みな工夫で低予算改修

共に障がいがある夫婦でも  
快適に生活できる家

高齢化の枠を越えて  
地域に貢献する民間施設

過去の取材で見た

失敗、反省が残った事例

最新の福祉機器が勢ぞろい

国際福祉機器展 H.C.R. 2016

北海道札幌市

K様邸

14

神奈川県横浜市

S様邸

16

福島県

会津若松市

特定非営利活動法人  
あすか

18

北海道札幌市

S様邸

20

北海道  
長万部町

グループホーム  
平里の家

22

24

26

# バリアフリーの

## 難しさを再認識

二十七回目となる「福祉住宅建築助成事業」では、例年より多数のご応募をいただきました。その中から今回は新築三事例、リフォーム五事例、そして小規模集合住宅一事例を紹介させていただきます。これまでこの「ふれあい」を通じて多くの事例を紹介させていただきましたが、今回はバリアフリーの難しさを改めて感じる事例が数多くありました。

### シビアさが求められる福祉住宅

今回の応募作品には施主さん、あるいはご家族に重度の障がいがある事例が多く含まれています。障がいのある人や身体機能が低下した高齢者のための家づくりには、大きく三つの傾向があります。一つは「障がいや身体機能低下があっても自立生活できる」家づくりです。全身の機能が完全に麻痺し、日常生活全般に介護が必要な人が住む家では「介護する人にとって使いやすい」家づくりが求められます。そして「重度の障がいがありつつも、できることは自分でこなし、介護する人も使いやすい」という、二つの要素を併せ持つ家づくりです。

いずれの傾向に応じた家づくりを行うに

しても、最も大切なのは「住む人の障がいや、日常動作に適確に対応できる」ということです。一般の家づくりにおいても、それは同じでしょう。住む人のライフスタイルや日常動作に合った家ほど快適で、逆にそれらに適合していない家には不便を感じます。

福祉住宅の場合は、その点がさらにシビアに求められます。ほんの数センチの違い、たった一カ所のスペースが狭い等の原因によって、障がいや身体機能の低下している人が家の一角を利用できなくなってしまう……そんなことにつながりかねません。

### 意外に多い「思わぬ」失敗

バリアフリーの技術、福祉住宅の家づくりが日増しに進歩していることは間違いあ

りません。しかし、そのようなミスは技術の進歩とは関係ないところで起きてしまっています。設計・施工を請け負う企業が勉強不足だった、施主さんの要望をきちんと反映しなかったというケースもありますが、それは論外です。これまで多くの実績を積んだ企業による新築やリフォームでも、施主さんと念入りに打ち合わせしているにも関わらず、そうした失敗が起きてしまうことを、我々はこのまでの「ふれあい」の取材を通じて知ることができました。

それは施主さんにとっても、そして工事を請負った企業にとっても残念なことです。そうした失敗を回避するため少しでもお役に立てるようと、今回の号ではこれまで私たちが取材で見た失敗例を紹介する頁を設

けました。ご覧いただければ幸いです。

これまでの取材でいただいた意見をまとめると、失敗を回避するには次のようなことが大切であることがわかってきました。

○施主さんの要望をしっかりと聞く企業選択が大前提

○施主さんはためらわず、要望をもれなく伝える

○こまめな情報交換

○施主さんは可能な限り現場を見る



○不確定要素がある場合、完成後に微調整

ができるように施工会社と約束しておく

現場に足しげく通ったり、建設中の家に入ることが難しいということもあるでしょうが、今ならスマホなどで撮影して状況を送ることもできます。細目に確認しておくことで安心感が増します。

## プロと一般人の捉え方の違い

完成後の調整をできる体制を整えておくのも大切なポイントです。ただ、完成後すると調整できなくなってしまう箇所もたくさんあるのが家づくりです。施主さんは建設関係者でもない限り、自分にとって必要なスペース、乗り越えられる段差が「何センチか」という単位で把握していません。ほとんどは感覚だけで覚えていきます。ですからトイレや浴室、車いすの回転が必要なスペースなど調整不可能な部分については、極めて慎重に設計・施工する必要があります。可能であれば建設時に現場まで来てもらい、実際にそれらの寸法を確かめてもらうことができれば理想的です。



今回の取材では、バリアフリーを担当されるのが初めてという設計士さんが手掛けた事例もありました。完成後の引き渡しでは、思わず涙を流されたそうです。そういうエピソードを聞くと、施主さんに対しても設計・施工を担当される企業に対して少しでも有益な情報をご提供したいと感じるばかりです。



# 住み慣れた家を再現し 更に進化させた暖かい新居

間取りや段差解消などはもちろん、細部に渡って使いやすさと快適性を徹底的に追求しています。障がいの種類や重さに合わせるだけでなく、使う人が最も心地よくスムーズに使えるという「家づくりの基本」が随所に垣間見えます。

## ご主人が高齢を迎えることにも配慮

長年住み慣れているSさんご夫妻のお住まいは、新たな道路計画の対象地となりました。移転しなければならなくなったため、旧宅の隣接地に新居の建設を決めました。

脳性まひによる上下両肢体に障がいがあるSさんは、日常生活に介護が欠かせません。これまで暮らしていたお住まいは、まだバリアフリーという言葉すら無かった頃に、Sさんや介護する人が使いやすい工夫を取り入れて新築しました。最も暮らし慣れた

その家ならではの間取りをできるだけ変更せず、機能性を維持するのが新築する上で決めた方向性です。ただし旧宅を建設した

当時よりも、近年の住宅のほうが性能的に向上しています。それらを取り入れつつ、Sさんはもちろん、先々高齢を迎えるご主人共々より快適で安心して暮らせる家づくりを目指しました。

完成した新居はSさんの日常生活に必要な、そしてご主人も使いやすいバリアフリーは全て取り入れたほか、暖かさは格段に向上しています。高気密・高断熱化しているだけでなく、日照が優れている環境を利用するためリビングの窓を大きくし、太陽光を存分に取り入れています。

設計担当者は、初めて取り組むバリアフリー物件だったそうです。それでもSさんご夫妻は「要望をしっかりと実現していただきました」と、大満足のご様子です。

北海道札幌市 S様邸

構造 木造在来工法

延床面積 89.43㎡ (27.00坪)

1階床面積 89.43㎡ (27.00坪)

家族構成 2人

Sさんご夫妻

…奥様に上肢下肢の障がいあり  
日常生活に介護が必要

設計・施工

(株)土屋ホーム北海道本店

☎011-746-3930





～浴室の入り口～

高い段差を設けることで、Sさんが車いすに乗った状態からでも出入りしやすくしています。



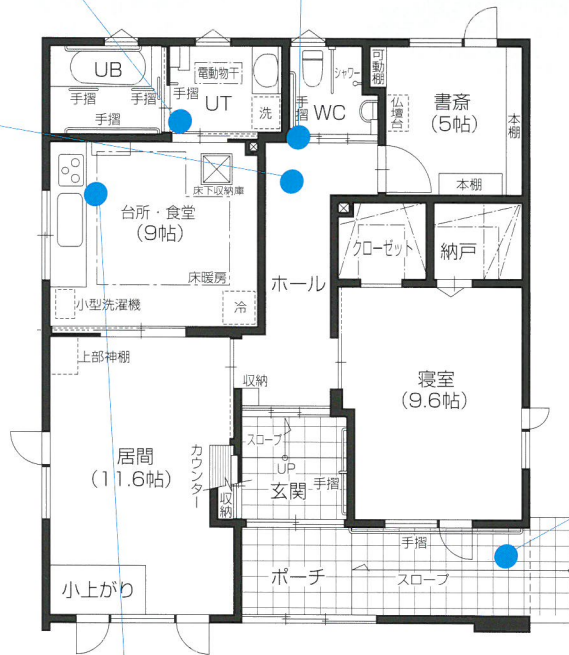
～トイレの工夫～

先々に備え、移動式のリフトを用意。リフトを固定するためのレールが入り口のすぐ脇にあり、車いすの出入りに支障が無いよう未使用時には金属カバーをしています。万が一のトイレの失敗に備えシャワーも設置。床や壁は防水仕様です。



～全スペースに続くホール～

家の中心をホールにし、全ての場所に車いすでアプローチしやすくしています。



～デザインを楽しむ～

玄関に続くスロープは角度などの機能面はもちろん、デザインにもこだわりました。



～多目的の台～

天板に柔らかい素材を張った台は、上で何かしらの作業ができるほか、疲れた時はベッドの代わりにもなります。



～オリジナルのキッチン～

できる限りの家事を積極的にこなすSさん。車いすの高さに合わせつつ、水の跳ね返りなどにも考慮したシンクは特注品です。手が不自由でも使える蛇口、一時的に熱い鍋やフライパンを置くことができる引き出し式の台など、独自のアイデアがあちこちに見られます。

POINT

- ◎使う人にしっかり合わせた作り
- ◎多彩なアイデアの導入
- ◎先々の変化への配慮



広々としてとても開放的なリビング・ダイニングはNちゃんの移動のしやすさ、キッチンからの見守り等にもしっかりと配慮されています。

# 家族みんなで暮らしたい 強い願いの詰まった住まい

## 地域で家族が暮らせる住環境を

Aさん一家はご夫婦と一男一女の四人家族です。長女のNちゃんには重度の障がいがありますが、家族と一緒に生活できる住まいをこの程新築しました。

Nちゃんの障がいに気づいたのは、彼女が保育園に通っている時でした。年齢と共に四肢機能の麻痺と知的障がい認められるようになってのですが、保育園の理解を得て加配保育士を配置してもらい、Nちゃんが一般の園児と同じく過ごせる環境を整えました。

Aさんご夫妻はNちゃんが卒園した後も施設に預けるのではなく、家族の元から特別支援学校に通学できる環境で新生活をスタートすることを決めていました。家族がNち

### 宮城県仙台市 A様邸

構造 木造在来工法  
延床面積 150.29㎡ (45.37坪)  
1階床面積 87.36㎡ (26.37坪)  
2階床面積 62.93㎡ (19.00坪)

家族構成 4人

Aさんご夫妻  
+  
長男(小学生)  
+  
長女(小学生) …四肢機能、知的障がいあり

設計・施工

(株)土屋ホーム仙台支店

☎022-283-2505

やんを介護できる住環境なのはもちろん学校の近所であることが必須条件でした。

いくつかの建設会社の相談した結果、最も親身になって対応してくれた、福祉住宅の実績も豊富なメーカーに全てを託しました。そして完成から約三カ月。ご家族の皆さんはとても快適に生活されているそうです。

Aさんご夫妻は共働きで、帰宅は早くても十九時過ぎ。Nちゃんは学校が終わった後、障がい児をケアする「放課後等デイサービス」で過ごし、帰宅してご夫妻が帰るまではヘルパーがお世話しています。長男のKくんもお手伝いを欠かしません。

どんなに苦労しても家族がみんな暮らしたいという強い気持ちで完成した住まいです。



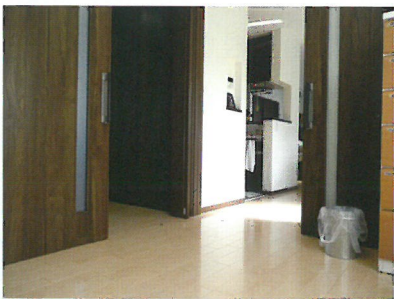
～浴室を安全に～

娘さんを入浴させる浴室は柔らかい床材を採用して安全性に配慮しました。



～玄関のスロープ～

車いすの出入りに配慮した玄関はポーチもホールも広さ十分。上がり框の一部分だけスロープにし、ホコリの侵入を軽減しました。

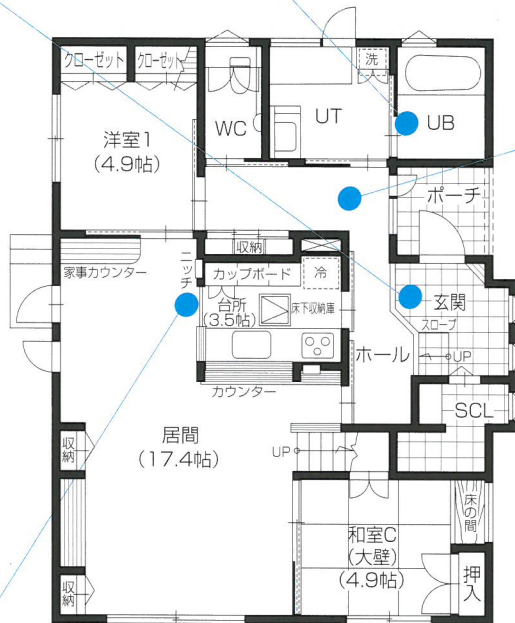
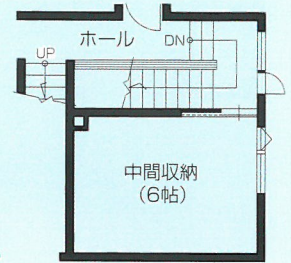
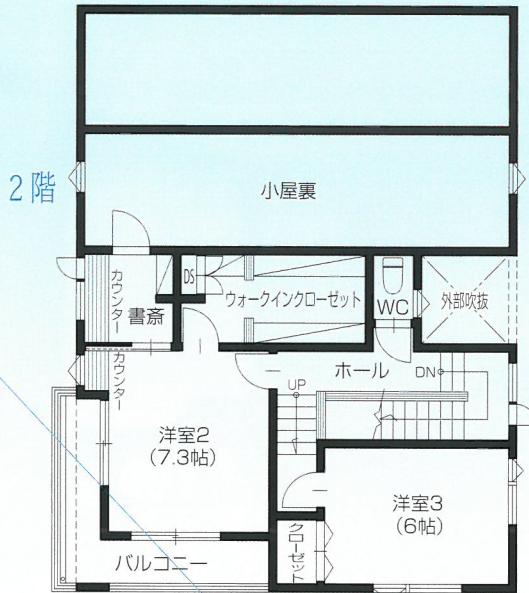


～キッチン～

一階の中心部にキッチンを配置。家事をしながら一階全体の気配を感じることができます。

POINT

- ◎移動と安全性への優れた配慮
- ◎キッチンを中心にした間取り
- ◎子どもの成長を見据えた工夫



～ホール～

車いすを押しながら一階のあらゆるスペースに行きやすいよう廊下の役割を持つホールのある間取りにしました。



～スロープ～

駐車場から玄関まで続くスロープは、水を浸透させる舗装を採用しました。デイサービスの送迎などでも使われるため、凍結や水たまりを大幅に軽減させることで安全性に配慮しました。



# 先々増える家族のために 快適性を重視した住まい

屋内はドアの数が少なく、一体感のある空間になっています。それでいながら、将来ご両親を迎える部屋はしっかりプライバシーが保たれています。

## 仕事場も兼ねる新居に先々ご両親も

事故で脊髄を損傷し、両下肢の麻痺の障がいのあるDさん。生活には車いすが必要です。この度、以前から交際されていた奥様とのご結婚を決め、それを機に新居を建築しました。

二年程前からDさんはシステム関連の企業で働いています。今年から在宅での勤務となり、新居は職場としても活用していくことになりました。そして先々は自営業を営んでいくご両親と一緒に生活されることも考えています。それらの事情から、機能性だけでなく生活する家族がより快適に過ごすことができるように配慮しました。

屋内にはほとんど間仕切りが無く、室内

全体に一体感を持たせています。先々ご両親が住むことになっても、奥様が最も作業するキッチンから広範囲に見守りができます。それでいて、ご両親のために用意した個室はプライバシーをしっかりと保つことができるようになっています。

限られたスペースのなかで、家族が最も長い時間を過ごすリビングをできるだけ広くなるように心がけました。そのため寝室などは必要最小限度の広さにしました。

屋内だけではありません。ご夫婦とも車を利用するため、駐車場は二台分が必要です。玄関まではスロープでアプローチしますが、幅はDさんの車いすが通れるぎりぎりの幅にとどめることで、できるだけ駐車場を広く使えるようにしています。

北海道札幌市 D様邸

構造 木造在来工法

延床面積 92.74㎡(28.05坪)

1階床面積 92.74㎡(28.05坪)

家族構成 2人

Dさんご夫妻

…ご主人に両下肢麻痺の障がいあり

先々はご主人のご両親と同居を予定

設計・施工

(有)西岡建設

☎0123-72-4823



～スロープ～

幅が狭いように感じますが、Dさんが使うには十分です。駐車スペースを広く使うため、ぎりぎりサイズにしました。

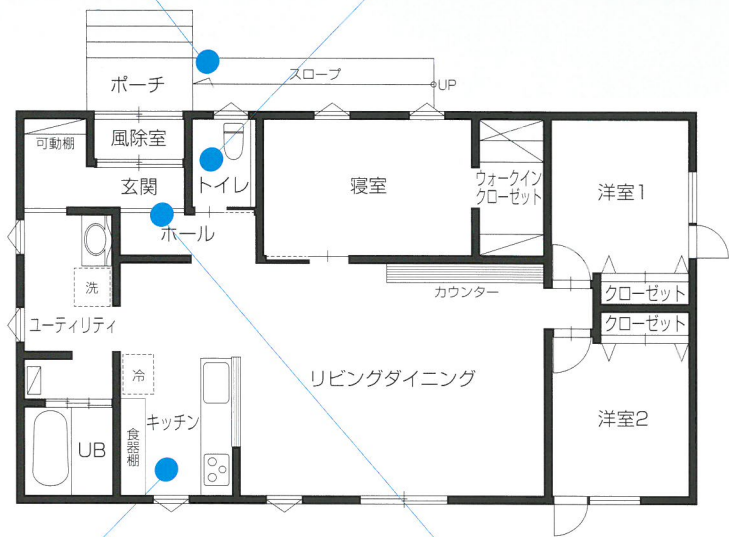
～手すりのないトイレ～

トイレは便器を端によせることで、Dさんが車いすのまま使いやすくなっています。手すりはなく、Dさんがより使いやすい手をつくことができる棚をしつらえました。



～引戸を採用～

開口部には全て引き戸を採用。引戸はバリアフリーのスタンダードになっています。



～広々とした空間～

あらゆるスペースを広くするように心がけました。キッチンも余裕の広さ。車いすでの移動も楽です。



～玄関の段差～

玄関の上がり框は3cm程の段差を付けています。かなり迷ったようですが、Dさんの場合この程度なら乗り越えられる範疇とのこと。ホコリが入りにくくなっています。

POINT

- ◎ 一体感とプライバシーが両立
- ◎ 室内空間随所を広くと
- ◎ 車いすで移動しやすい動線



限られたスペースを一切無駄にすることなく、4人家族でもゆったりとくつろげる生活空間を創りあげました。仕事場のスペースが大半を占めていたぶん不十分だった寒さ対策も万全です。

# 愛着ある築四十年の家が

## 快適で暖かに大変身

### 生活の変化に合わせて大規模改修

Sさんはご両親とお子さん、三世代の四大家族で暮らしています。築四十年以上暮らしてきたお住まいは、お父様の仕事場としても利用してきました。

お父様が長年続けてきたのは、徹夜作業を余儀なくされる激務も珍しくない仕事です。年齢を重ねるに連れ、健康面への影響が心配になってきました。一方で息子さんには大学受験が近づいてきました。遅い時間まで続く仕事のものが音が、受験勉強に影響を与えかねません。そうした様々な事情が重なり、お父様はリタイアを決意しました。

Sさんは家族の生活の変化をきっかけに、それに応じて生活環境を大きく改善する決

### 東京都狛江市 S様邸

構造 木造在来工法  
延床面積 60.03㎡ (18.20坪)  
1階床面積 37.35㎡ (11.30坪)  
2階床面積 22.68㎡ (6.90坪)

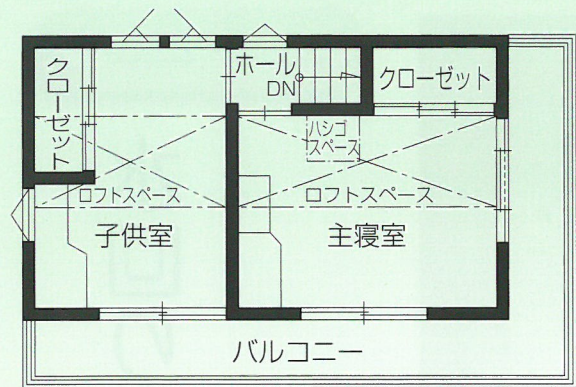
家族構成 4人

ご両親 …奥様が足腰に若干の不調  
+  
Sさん  
+  
長男 (高校生)

断をしました。年齢と共にお母様の膝や腰も不調になってきたことや、家族の健康に悪影響である冬の厳しい寒さも改善する必要も感じていました。移転も含めてご家族で検討した結果、大規模リフォームで既存の家をよみがえらせることにしました。

現在のお住まいは都内にありながらも緑が多い環境の中にあります。都心や郊外に出るにも利便性が良い上に、周囲は傾斜が少なく平坦な地形。足腰の機能が低下しても生活しやすいという利点があります。それらの好条件もさることながら、四十年以上も生活してきた地域への愛着こそがリフォームを決めた大きな理由です。住み慣れた場所でお馴染みのご近所さんたちと暮らせる安堵感は何にも勝るものかもしれません。

設計・施工  
(株)土屋ホームトピア  
世田谷支店  
☎03-3707-5422



※リフォーム前の平面図は残っていません。

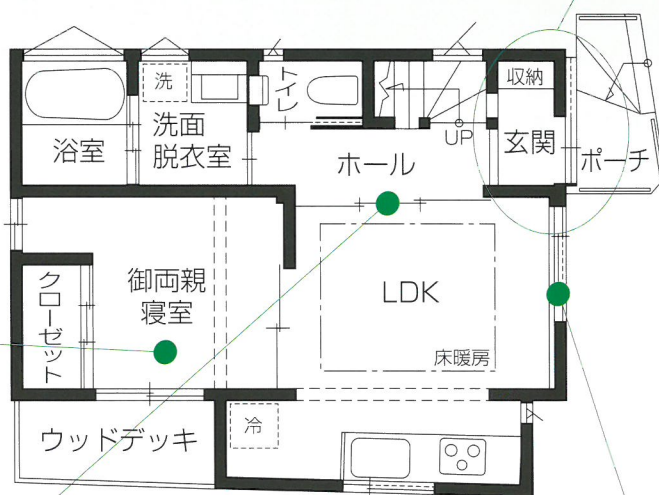
2階

～段差の解消と  
玄関の工夫～

室内の段差は全て改修。膝の調子が悪いお母様にとって不便だった約25cmの玄関の上がり框も、15cm程まで低くしました。玄関には引戸を採用し、道路からのアプローチを変更して使いやすくしました。



～after～



1階

～寝室に変わった仕事場～

お父様が長年愛用した仕事場は広々としたご両親の寝室に。寒さ対策もしっかりして、お2人の快適な団欒スペースに変身しました。



～間仕切りを引き込み式建具に～

広いとは言えないLDKは、天井までの建具でホールとリビングを一体化しました空間を広々と使用できる工夫が施されています。



～樹脂窓、複層ガラスを採用～

室内を暖かくするためには断熱性の高い窓が必須。メンテナンスや入れ替えが必要ないLow-e複層ガラスを採用しました。夏は涼しく冬は暖か、そして優れた遮音性も特徴です。

POINT

- ◎高気密・高断熱化で一年中快適
- ◎必要に応じてリビングのスペースを変更可能に



リビングの奥側に位置する水回りは、レイアウトを大きく変更しました。冬場はとても寒かったため断熱改修も。家全体が暖かくなっただけでなく、暖房費も大幅に減額しました。

# 水回りをシンプルにまとめ 快適度が格段にアップ

## 設計事務所の提案で暖かさも向上

Kさんご夫妻はご結婚される際、奥様の実家に近い場所で生活したいというご希望から、現在のお住まいを購入されました。

奥様が体の不調を感じ始めたのは七年前からです。足の指が変形関節痛と診断され、鎮痛剤を服用されるようになりました。また同じ頃から極端に疲れやすくなってしまうようになりました。立ち仕事を長時間こなした後は横になって休まなければ回復しないような状況です。Kさんは定年後も毎日新しい職場に勤務されているため、絶えず奥様を手助けできる時間ありません。

そうした事情から、この程奥様の体の負担を軽減することを目的としたリフォームに

北海道札幌市 K 様邸

構造 木造在来工法  
延床面積 90.26㎡ (27.30坪)  
1階床面積 46.37㎡ (14.03坪)  
2階床面積 43.89㎡ (13.27坪)

家族構成 2人  
Kさんご夫婦…奥様の足と体調が不調

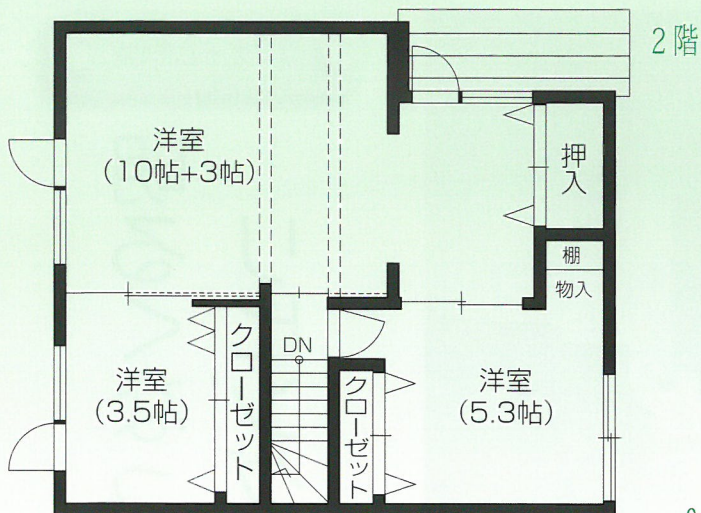
設計  
一級建築士事務所  
自然(じねん)  
☎011-668-6502

施工  
(株)丸大建産  
☎011-790-3330

踏み切りました。家事の中心である水回りの動線を極力シンプルにまとめ、トイレや浴室など必要な箇所の手すりを施工。そして可能な限り室内のドアを引戸に変えるのが当初の予定でした。

奥様が情報を集め設計を依頼したのは、これまでたくさん福祉住宅を手掛けた実績豊かな設計事務所です。プランニングを進めるうち、老朽化が進んでいたため断熱性能が落ちていることなどもわかってきました。先々ご夫婦が快適に生活するためには、寒さ対策なども不可欠であることを進言し、Kさんもその提案を受け入れました。「結果として大正解でした。施工していただいた会社も限界までプライスダウンしていただきました」と、とても喜ばれています。





～リビングの窓を大きく～

リビングのバルコニーを撤去し、大きな窓に入れ替えました。採光と暖かさがアップしました。

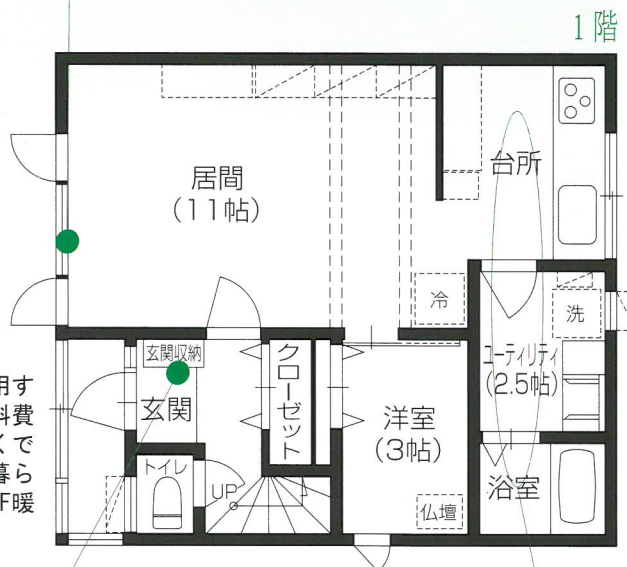
～after～



※リフォーム前の平面図は残っていません。

～暖房を併用～

エアコンと灯油FF暖房を併用することで、季節に応じて燃料費を節約しながら室内を暖かくできます。また将来の安全な暮らしに配慮し、火を使う機器FF暖房のみとしました。



～玄関収納を施工～

新たに設置した収納で玄関周りにあった細々したものをスッキリと片付けられます。



～水回りの動線をスッキリ～

浴室などの位置を変更して水回りをひとまとめに。効率的に移動できる動線も確保して、家事が格段に楽になりました。

POINT

- ◎上手にまとめた水回り
- ◎ドアの多くを引戸に変更
- ◎暖かさのための様々な配慮



キッチンからはリビングと、窓の向こうの庭まで見通せるようになりました。リビングの隣にあるお父様の部屋の気配がわかる安心の解放感です。娘さん一家が遊びに来ても、狭さを感じなくなりました。

# 明るくなったキッチンから リビングの見通しもバツチリ

## 浴室まわりの暖かさにも配慮

ご夫婦とお父様の三人が暮らすSさんのお住まいは築年数約六十年程。必要に応じてリフォームを繰り返してきました。

最後のリフォームは一九八一年。それから現在までご家族の生活環境はもちろん変化しました。お父様は御年九十三歳を迎えられますが会話は聡明、身体的な問題もまったく無く、その元気なお姿には驚かされません。それでもご年齢を考えると、やはり「いつ何があるかわからない」と心配してしまうのはSさんご夫婦だけではないでしょう。

二人のお子さんは共に独立しており、特に近隣に住むお子さんは三人のお孫さんを連れて日常的に遊びにいらっしやるそうで

す。まだ小さいとはいえお孫さんたちは元気が盛り。何かのはずみでケガなどをしないかも心配です。

そこで、これまでスペースを区切っていた間仕切りを撤去し、リビングとキッチンを一体化しました。キッチンで家事をしながらお父様やお孫さんたちを見守ることができ、気になっていたキッチンの暗さも解消されました。

一階部分の段差は全て解消し、寒かった浴室に断熱効果の高いユニットバスを入れたほか、脱衣スペースの窓に二重窓を施工するなどして、温度差によるお父様の体への負担を軽減するような配慮もしました。開放的で明るくなり、そして使いやすさも格段にアップしました。

### 神奈川県横浜市 S様邸

構造 木造在来工法  
延床面積 117.84㎡ (35.70坪)  
1階床面積 66.92㎡ (20.27坪)  
2階床面積 50.92㎡ (15.43坪)

家族構成 3人

お父様 …健康状態良好  
+  
Sさんご夫妻

ご近所に住む長女が、お孫さんを連れて頻繁に遊びに来ます。

設計・施工  
**(株)土屋ホームトピア**  
横浜支店  
☎045-913-1995



～浴室を暖かく～

二重窓で断熱性を高め、暖房も備えて気になっていた浴室の寒さを解消しました。

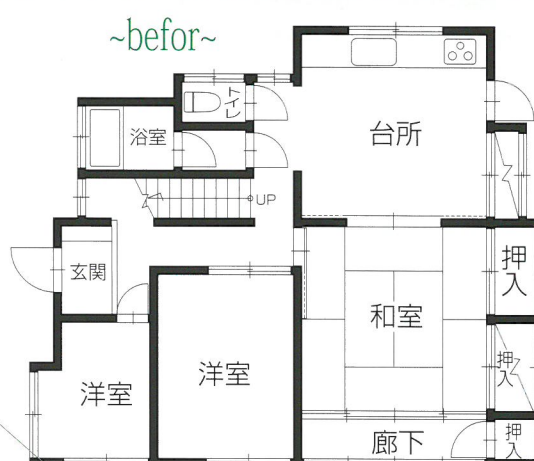
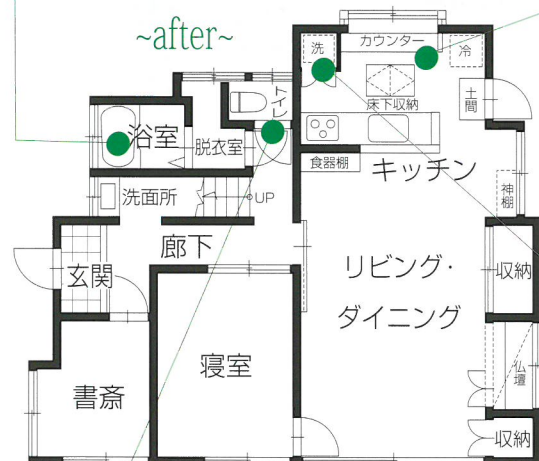


～明るくなったキッチン～

リビングと一体化し、白を基調としたカラーですっきり明るくなったキッチン。カウンターのタイルは奥様が手作業で貼りました。



※今回リフォームしなかった2階部分については掲載していません



1階



～L字の手すり～

ご家族の皆さんが使いやすいよう、様々な持ち方ができるL字の手すりをトイレに施工しました。



～洗濯機の収納～

キッチンカウンターのすぐ脇の収納に洗濯機を収めました。便利さ抜群で省スペース、目からうろこの配置です。

POINT

- ◎リビングとキッチンを一体化し、明るく開放的に
- ◎浴室周りの暖かさを確保



限られた予算のなかで、指定特定相談支援事業所として法的にクリアしなければならない改修を実現しました。ドアの横の採光窓は、なんと建設会社の営業担当者が手作りしました。工賃はもちろん無償です。

リフォーム type

# 老朽化した食堂を 巧みな工夫で低予算改修

## 地域福祉の拠点として再出発

関東の施設で障がい者を支援する仕事に携わってきたYさんご夫妻。奥様のご実家であり、三十八年営業してきた食堂を、障がい者のための「指定特定相談支援事業所」として運営できるようにリフォームしました。

なんらかの理由で自分や家族が障がいを持った場合、様々なサービスを国や自治体から受けることができます。そうしたサービスが必要になった人が、どのようなサービスがあり、どのように利用することができるのかという相談に応じ、サービスの利用計画を作成するのが「指定特定相談支援事業所」です。いわば障がい者と行政の橋渡しの役割を担う事業所ですが、全国的に見るとその数

はまだまだ足りていません。

Yさんはもともと勤務していた施設で管理職となり、以来利用者さんと触れ合う機会が減ってしまったそうです。もっと障がいのある人たちと直接的に関わっていきたくて思い続けていたのですが、奥様のご両親が高齢となり、食堂を営むことが難しくなると、そして前述した支援事業所の不足を少しでも解消したいなど、様々な思いやきっかけが今回のリフォームにつながりました。

資金が足りず、いくつかの建設会社には相談したもののあつけなく断られたそうです。しかしこのリフォームを手掛けた会社は数々の工夫で低予算のアイデアを絞り出しました。「もう感謝の気持ちしかありません」と話すYさんです。

福島県会津若松市  
特定非営利活動法人 あすか

構造 木造在来工法  
1階床面積 124.34㎡ (37.68坪)

家族構成 4人  
ご両親+Yさんご夫妻  
…指定特定相談支援事業所として  
不特定多数の障がい者が利用

設計・施工  
(株)土屋ホームトピア  
会津若松営業所  
☎0242-23-8477

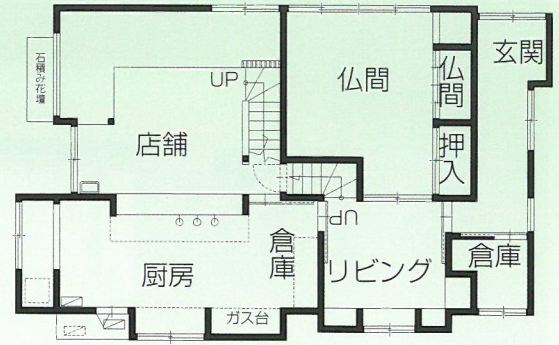


～親しみやすい外観～

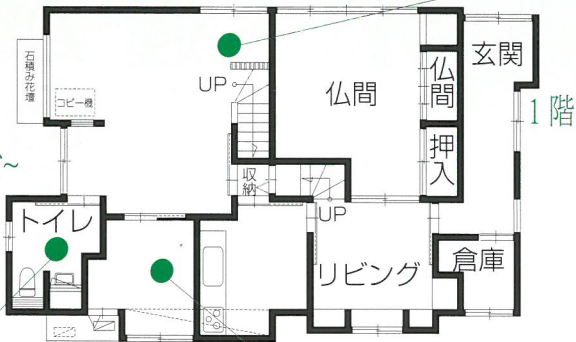
長年地域で愛されてきた食堂の面影を残したため、親しみやすい雰囲気がにじみ出ています。

※今回リフォームした1階のみを紹介しています。

～befor～



～after～



～生活スペースとの遮断～

事業所とYさん一家の生活スペースは隣り合っていますが、それを遮断するようロールカーテンを施工しました。シンプルですが、低予算で効果のある配慮です。



～バリアフリーのトイレ～

あらゆる障がいのある人がやってくるため、それらに極力対応できるトイレを設置しました。個人で行うのは難しいリフォームです。



～新設した相談室～

指定特定相談支援事業所の開設には相談室の設置が義務付けられています。今回のリフォームのメインテーマであり最大の難点でしたが、大きかった食堂の厨房のスペースを利用し、素晴らしい出来栄となりました。

POINT

◎お金を掛けるべき箇所と節約すべき箇所をメリハリをつけトータルコストを大きく軽減

～既存照明を活用～

節約リフォームの一環として、既存の照明をフルに利用しています。





夕方以降のメインスペースとしている2階のリビング。Sさんご夫妻には友人も多く、来客も多いそうです。トイレやエレベーターへもスムーズに移動できるゆったりとした動線になっています。

# 共に障がいがある夫婦でも 快適に生活できる家

## 車いすでも隅々まで移動できる家

Sさんご夫妻は共に脊髄損傷による両下肢麻痺の障がいがあります。同じ病院で治療やりハビリを受けている間に知り合い、そしてご結婚されました。奥様はもともとこのお住まいに一人で暮らしていましたが、ご結婚を機に札幌近郊で暮らしていたご主人が奥様の住まいに移り、ご夫婦二人の新たな生活をスタートすることにしました。

奥様の持家は二階建てで、奥様は一階をメインスペースとして生活していました。今回のリフォームでは共に車いすを利用しているお二人の生活空間として二階も利用できるようにし、これから安心で快適に過ごせるようにするのがテーマです。一階と二階を行き

来するのに欠かせないホームエレベーターを設置し、家の隅々まで移動できるよう屋内の段差は全て解消しました。開口部には全て引戸を採用。二階にはサンルームも設けました。

バリアフリー住宅では、使う人の身体状況にピタリと合わせた建具や家具、住機（水回り）が欠かせません。Sさん宅の場合段差解消などは割合スムーズにリフォームできたようですが、もともと奥様に合わせていた住機ではご主人が使用できず、多くを交換することになりました。特にキッチンシンクを全て特注する必要があったため、かなりの費用がかかったそうです。

そうした苦勞の甲斐もあり、お二人の満足いく完成を迎えることができました。

北海道札幌市 S様邸

構造 木造在来工法  
延床面積 109.04㎡ (33.04坪)  
1階床面積 72.45㎡ (21.95坪)  
2階床面積 36.59㎡ (11.09坪)

家族構成 2人

Sさんご夫婦 …お2人とも両下肢麻痺  
で車いすを利用

設計

(株)キーナデザイン  
一級建築士事務所  
☎011-214-9609

施工

(株)若山建設

☎0120-91-6868



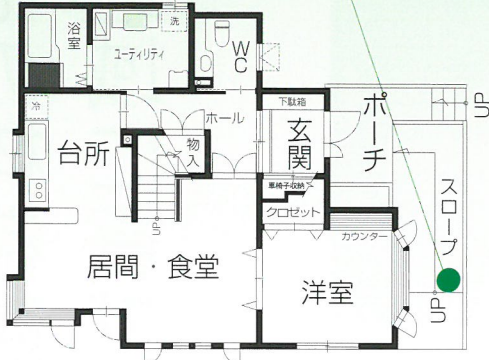
～鉄骨のカーポート～

カーポートは頑丈な鉄骨で組み、玄関との間をつなぐスロープはロードヒーティングを導入。除雪の手間が要りません。

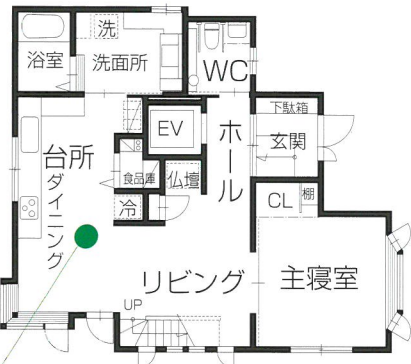


～既製品を応用～

上下2分割式のリーズナブルな既製品棚を、上下逆に組み合わせて使用しています。そうすることで、車いすのまま電子レンジやスペースの隅隅まで使うことができます。



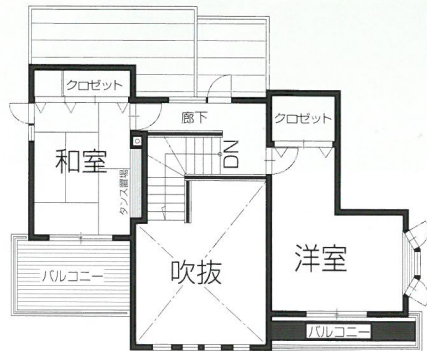
1階



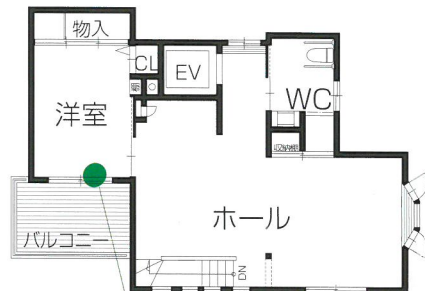
～befor～



～after～



2階



～ダイニングキッチン～

車いす対応のキッチン製品は高価格ですが、ご夫婦で使えるものにフルチェンジしました。ダイニングキッチンのある1階が、朝のメインスペースとなるそうです。

POINT

- ◎車いすでも家中に行ける仕様
- ◎時間帯に応じて1階と2階で使い分けられるため、日常動作の移動が最小限



～車いすで行けるバルコニー～

もともとあったバルコニーにも、車いすのまま行けるようにしました。どうしても段差が解消できなかったため、木製の小さなスロープを置いています。



居室はもちろん全て個室ですが、一般的なグループホームよりもやや広め。利用者の皆さんゆったりとした環境の中で快適な毎日を過ごしておられます。

# 高齢化の枠を越えて 地域に貢献する民間施設

## 経営と福祉のプロが手を組んで

道南の町長万部は、道内の小さな町村と同じく独居の困難な高齢者のための住宅不足が深刻です。「平里の家」はその長万部で唯一の民間グループホームとして、地元で長年建設業を営む(株)鈴木総合サービスにより十年前に開設されました。

規制緩和により近年は様々な業種が福祉施設の運営に参入しましたが、現在その多くが撤退しています。しかし鈴木総合サービスの福祉事業はまだ道半ば。長期的な構想を持ちながら、地元の福祉環境の整備不足解消に挑んでいる最中です。

経営は民間企業である鈴木総合サービスが担い、利用者さんのケア全般は福祉のプロ

北海道長万部町

グループホーム  
平里の家



設計・施工

(有)山野内建設

☎0137-62-3498

であるスタッフが担当しています。責任者である須田貴之部長は精神科の相談員としてキャリアをスタートした後、全国の様々な福祉施設で経験を積んできました。企業と福祉のプロがタッグを組んだ結果、足腰の強い経営と利用者さんの尊厳を最大限に尊重する施設として、地元だけではなく近隣の町村からも入居の希望する人が後を絶たないほどの評判を得ています。

この施設の方針の1つに「過剰なサービスは控える」というものがあります。この方針は過剰な経費歳出を抑えるほか、入居者さんたちの自主性の尊重にもつながっています。私たちが訪問した日も敷地内で畑作業を楽しむ人、自室でテレビを見ながら笑っている人、スタッフさんとおしゃべりを楽しむ





～家庭菜園～

敷地内のあちこちにある家庭菜園は、もちろん入居者の皆さんが利用しています。こうした環境整備は、土建業を営む経営母体が全て自前で行える強みがあります。



～広々とした施設～

敷地も建物も大きく、施設内の全てが開放的になっています。最も広いメインの共用スペースでは度々イベントも開催されます。



～必要な時に  
一体化できる水回り～

トイレと浴室、洗濯室が、ドアを開けると一体化するアイデアを導入。それぞれのスペース使用時にはドアを閉めておくことができるので、気兼ねなく使うことができます。



～温もりある施設内～

各共用スペースは広いだけでなく、温もりのある空間造りになっています。効率的な運営においても、こうした環境づくりは重視され、整えられています。

定員 18(1ユニット9人)

入居者数 18

～費用等～

入居時 なし

5～9月 ￥121,202  
～ 124,023/月

10～4月 ￥129,702  
～ 132,523/月

(食事提供、管理、日用品、光熱水、10～4月の暖房費等)  
※生活保護対象者は別途費用体系

～協力機関等～

長万部町立病院

人など、まるで地域の集会場のようなのびのびとした雰囲気にも含まれていました。

またこの施設では、資格が無い新卒者でも、寮生活しながら補助的な業務を通じて経験を積み1人立ちできる、地元の若い人達を介護職のプロとして育成する環境づくりも整えつつあります。なり手不足が問題になっている介護職ですが、同時に長万部は他の小さな町村同様、若い人たちの就職口も不足しています。高齢者の住居不足と若者の就労問題を同時に解決することを目指して、平泉の里はさらに次のステップを目指しています。



## 手すりが使えない

必要な箇所に設置したはずの手すりなのに、つかんでも力を入れることができない、またはつかむことすらできません。

### 原因は？

使う人の障がいや身体機能の低下度合いによって、適正な手すりの位置や太さは千差万別です。使う人にとって最適な設置位置を確認せずに施工してしまった結果です。

### 対策は？

この失敗事例は多いです。強度を確保できるのであれば適切な位置に付け替えるのはもちろん、太さも使う人に適正なサイズの手すりを選んでください。

当財団では平成元年に小誌「ふれあい」を発行して以来、バリアフリー住宅の新築・リフォームの事例を300件以上取材してきました。それらの中には「ここがミスだった」、「こうしておくべきだった」という反省点を残した事例があります。

これからバリアフリー住宅の新築やリフォームをされる方、そして工事を請負う企業の方々の双方が、同様のミスを回避するための参考にしていただければという願いを込め、それらの事例の中からいくつかを紹介させていただきます。

## 車いすから移乗する台が高い

室内用と外出用の車いすに乗り換えるため玄関にベンチを設けましたが、数センチ高さが合わず、使えませんでした。

### 原因は？

事故により全身麻痺となって間もない施主さんは、日常生活で新たに必要になる物のサイズを細かく認識できていませんでした。

### 対策は？

住まいの完成後は様々な箇所に修正が必要になることを予測し、その点を施工会社と事前に相談していました。そのためベンチの修正もスムーズに行うことができました。





## 介助用ベッドの高さが低い

介助が必要な子どもを入浴させた後、体を拭くためU-Tに設置した折り畳み式の台の高さが低すぎました。なんとか使用できますが、とても使いにくいそうです。

### 原因は？

採用したのは既製品で、高さは二種類しかありませんでした。同じ物を特注すると三倍以上の金額になるため、仕方なく選択しました。

### 対策は？

その台を支える足の下に、新たに台を設置するなどして高さを上げるように試してみるそうです。キッチンなども同じですが、福祉関連の住宅機器は選択肢が狭いというに価格も高いという難点があります。

# 過去の取材で見た 失敗、反省が残った事例

## 玄関ドアの開きが逆

設計者のアドバイスに従い内側から外側に開く玄関ドアを採用。ところがそのドアだと、障がいのある子どもを車いすに乗せたままドアを開閉することができません。完成後初めてそのことがわかりました。

### 原因は？

以前のお住まいでも同様の悩みを持っていた奥様は、そのことを設計者に伝えていました。ところが「デザイン上の理由」ということで聞き入れませんでした。

### 対策は？

ドアの開き方を左右逆にする、あるいは引戸にするという新たなリフォームが必要です。それも設計上可能かどうかはわかりません。最初の打ち合わせの段階から、十分に納得できる説明をする企業を選んでください。



# 最新の福祉機器が勢ぞろい

## 国際福祉機器展H.C.R.2016

世界で開発された福祉機器やメーカーが一堂に介する「第四十三回国際福祉機器展H.C.R.2016」が、十月十二日(水)から十四日(金)の三日間、東京ビッグサイト(東京都江東区有明)にて開催されます。出展する企業・団体は十七カ国・一の地域から五百二十八。アジアでは最大級の国際福祉機器展です。

### シンポジウムなど企画も多数

世界中から福祉機器を集めて開催される国際福祉機器展は、これまでも全国主要都市で開催されてきました。「国際福祉機器展H.C.R.」は日本初の国際福祉機器展として開催され、今年で第四十三回目を迎えます。近年では出展社数は五百三十社前後、来場者数は百二十万人前後にのぼり、今回も同水準の規模になることを見込んでいます。

現時点では既に五百二十八の企業や団体による千八百九十ものブースが並ぶことが決定しています。そこには最新テクノロジーを結集した介護ロボットからハンドメイドの自動員まで、あらゆる福祉機器をみて、さわって、たしかめることができます。

そして機器の展示以外にも様々な企画が予定されています。今年度予定されているプログラムは次のページにて紹介していますのでご参照

ください。

障がい当事者や福祉関係者にとって貴重な情報が提供されるのはもちろん、あらゆる人たちにとつて、世界の福祉の「今」を知ることができ、有意義なイベントです。入場は無料(登録制・事前もしくは当日)。詳細につきましてはH.C.R.Webサイト<https://www.hcr.or.jp/>を確認ください。

身近に活用できるものから最新テクノロジーを応用したもので、国内外メーカーのあらゆる福祉機器が集まります。



## 1. H.C.R.2016国際シンポジウム

- ・テーマ:「障害者の権利の擁護とさらなる社会参加の促進のために  
～ノーマライゼーションのこれまでとこれから」
- ・主 旨:わが国の「障害者の権利に関する条約」の締結を受けた諸制度の拡充や2020年のパラリンピック東京大会の開催など、障害者の権利擁護や社会参加の一層の促進に向けた動きが進みつつある状況に踏まえ、障害者の権利の擁護のこれまでとこれからについてデンマークからのレポートやわが国の取り組み状況などから展望します。
- 【シンポジスト】 ハナ・スティッグ・アンダーセン氏(デンマーク社会福祉・内務省 障害者局長)  
末光 茂氏(社会福祉法人 旭川荘理事長、川崎医療福祉大学特任教授、医学博士)
- 【チューター】 近藤 純五郎氏(一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、弁護士、元厚生労働事務次官)
- ・日 時: 10月13日(木)PM
- ・会 場: 東京ビッグサイト 会議棟6階「605 - 608会議室」
- ・定 員: 250名
- ・参加費: 1,000円

## 2. H.C.R.セミナー

保健・福祉・介護に関わるテーマのなかから、次のようなプログラムが会期中3日間にわたり順次開催される予定です。

- i) 一般、福祉サービス利用者・家族むけセミナー
  - ①はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー(テーマ数:10)
  - ②高齢者むけの手軽な日々の食事
  - ③一般家庭の介護で腰痛にならないための基本技術
  - ④介護ロボットで将来の介護はこう変わる(仮題) など
- ii) 福祉職・介護職むけセミナー
  - ①福祉施設の実践事例発表～役立つ活かせる工夫とアイデア
  - ②福祉施設における環境問題への取り組み
  - ③福祉施設での感染症の知識と対応など
- iii) 企業関係者むけセミナー
  - ①介護ロボット開発の最新動向と展望(仮題)

## 3. 特別企画

- ①障害児のための「子ども広場」  
: 子どもむけの福祉機器の集中展示。子ども用機器や療育に関する相談なども実施。
- ②ふくしの相談コーナー: 福祉機器・自助具の相談コーナーを設置。
- ③アルテク講座  
: 携帯電話など身近にあるテクノロジー(アルテク)の福祉的活用方法について解説・実演。
- ④高齢者・障害者の生活支援用品コーナー～自分に合わせられるモノ展(仮題)  
: 障害者差別解消法の制定により求められるようになった“合理的配慮”。そこで、H.C.R.2016では、自分に合わせられる、調節できる「モノ」を紹介。
- ⑤福祉機器開発最前線: 研究・開発中の機器や新製品、最先端の介護ロボットを紹介。
- ⑥被災地応援コーナー  
: 被災し、復興に取り組みながら製造・生産活動に取り組むセルプ(障害者授産施設)の製品を販売。

尚、これらのプログラムは現時点での準備の状況ですので、追加や変更の可能性があります。最新情報と詳細はH.C.R.Webサイトにてご確認ください。

改題した号も含め「ふれあい」は、おかげ様で今回27回目の発行をさせていただくことができました。改めて関係者の皆様に対して、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

我が国では今年度より「障害者差別解消法」が施行されることとなりました。これまで様々な点で不自由を強いられてきた障がいのある方々、ご家族の皆様にとって、大きな希望の光になるのではと、当財団でもこの新たな法施行に期待を寄せております。

しかしこの法律は、あくまでも「解消法」であり、「禁止法」ではありません。そして障がい者ではない方々、肉親や知人に障がい者がいない方々の中に、この法はどれほど浸透しているでしょうか。

多くの課題はありつつも、我が国が社会を「ノーマライゼーション」という方向に向けて舵を切ったと捉え、私たちもその普及に、これまで以上に邁進しなければと感じております。

(公財)ノーマライゼーション住宅財団

第27回

2016 福祉住宅建築助成実例集

ふれあい

公益財団法人

編集・発行

**ノーマライゼーション住宅財団**

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3 ルーブル16 9F

電話(011)613-7551 FAX(011)612-8431

<http://www.normalize.or.jp/>

2016年7月発行

平成28年度

# 福祉住宅・福祉小規模集合住宅 バリアフリー

## 建 築 助 成

「すべての人が共に暮らし共に生きることが  
ノーマル（正常）である」という  
ノーマライゼーション理念に基づき、  
高齢者や障がい者にとっても  
安全・安心で快適に暮らせる  
住生活環境の整備・向上のため、  
助成金により福祉住宅の建築を支援いたします。

### 助成の対象者

高齢者や障がい者が安心して暮らせる住宅、また将来身体機能が低下しても安心して生活できる住宅として新築やリフォームした建築主

**福祉住宅:** 新築(バリアフリーにした物件)やリフォーム(住宅内外の手すり・スロープ・トイレ・浴室等)の住宅改善・改修した建築主

**福祉小規模集合住宅:** グループホームや高齢者向けアパートなど(10名程度居住)の建築主

### 対象物件

原則として平成27年12月以降に工事が完了した物件

### 助成金

1件あたり5万円～最高30万円まで(ただし、総額300万円の範囲内)

### 応募方法

設計士、施工会社、医療・介護関係機関などのアドバイスを含め、福祉住宅・福祉小規模集合住宅として工夫・配慮した点などを、当財団所定の申請書(当財団ホームページからダウンロード可)に記入し、写真添付のうえ提出。リフォームや改修工事の状況場所がわかるように、施工前・施工後の写真を添付

### 審査

当財団委嘱の有識者による審査委員会にて、今後の参考に資する施工物件を選考(選考された案件の中で、すばらしいアイデアをご提案された施工会社様、または設計・施行担当の方へ表彰状を贈呈)

### 応募期間

平成28年5月1日～平成28年11月30日(必着) 年1回公募

### 決定および支給

発表:平成29年2月(書面にて連絡) 支給:平成29年3月  
※助成対象物件は、当財団発行の福祉住宅助成実例集『ふれあい』に掲載させていただきますので、事前に取材の承諾をお願いいたします。


### 応募 問い合わせ先

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団  
〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3 ルーブル16 9F  
TEL: 011-613-7551 FAX: 011-612-8431  
<http://www.normalize.or.jp/> E-mail: [zaidan@tsuchiya.co.jp](mailto:zaidan@tsuchiya.co.jp)



主催 公益財団法人 **ノーマライゼーション住宅財団**

後援 北海道 社会福祉法人北海道社会福祉協議会  
札幌市 社会福祉法人札幌市社会福祉協議会 北海道デザイン協議会



福祉住宅の実例、財団の活動に関しては  
ノーマライゼーション住宅財団のホームページをご覧ください

<http://www.normalize.or.jp/>